

国語科 第2学年

1 教科のねらい

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のように育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 学習の仕方

(1) 授業では

- ① 休み時間のうちに授業道具を机の上に準備し、1分前着席を守る。
- ② 授業中は注意深く指示を聞き、他の生徒と協力して学習課題に積極的に取り組む。
- ③ 他の人の意見をよく聞き、自分でも考えて意見を積極的に発表する。
- ④ 板書を分かりやすくワークシートに記入し、自分の考えも書き入れるなど工夫する。

(2) 家庭などでは

- ① 予習として教科書を音読し、読めなかった漢字の読み方を調べておく。
- ② 新出漢字を練習し、分からなかった言葉の意味を調べておく。
- ③ 単元終了時には復習を行い、学習した内容の定着を図る。課題は期限までに終わらせる。

(3) 定期テスト前には

- ① 教科書を、再度音読する。
- ② ワークシートやワーク等を見直して学習したことを振り返り、できるまで問題演習を繰り返す。
- ③ 範囲の漢字の読み書きができるようにしておく。

3 教科の学習内容

時期	「単元名」・『教材名』	学習のねらい	おもな学習内容
一学期	オリエンテーション 「自己紹介文を書こう」	・国語の学習の仕方について理解する。 ・目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする。	・中学校国語科の目標、学習の進め方
	「表現方法に注目して読む」 『虹の足』『豚』	見えている「虹の足」によって、見えていない「虹の足」について考える。	・詩の朗読 ・象徴表現の読み取り ・詩の表現技法の効果
	「登場人物の言動の意味について考え内容を捉える」『タオル』	少年の気持ちの変化を、描写の効果や作中人物の言動から読み取り、考えを持つ。	・祖父の人物像や少年の心情の変化を、展開に沿って読み取ること ・「タオル」の役割について考え、文章にまとめること
	「文法の小窓1」『活用のない自立語』	「活用のない自立語」五品詞それぞれの働きについて理解する。	「名詞」「連体詞」「副詞」「接続詞」「感動詞」の種類や用法
	「硬筆展覧会に向けて練習する」『硬筆』	身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書くことができる。	手本の文章を読み、横書きの楷書で書かれた文章の特徴をつかんで美しく書くこと
	「漢字の広場1」 『まちがえやすい漢字』	形の似た漢字、間違えやすい漢字について理解を深め、書き分けられるようにする。	似た形の漢字について書き分けて漢字練習すること
	「情報と情報との関係について理解する」『日本の花火の楽しみ』『水の山富士山』	文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述をもとに捉え、要旨を把握する。	・情報と情報の関係の理解 ・読み比べ
	「説得力のある提案をする」	・話の構成を効果的に組み立てて話す。 ・根拠の適切さに注意しながら意見と根拠を分けて話す。	・話の構成 ・意見と根拠の区別
	「構成を明確にして手紙を書く」 「言葉の小窓1」『敬語』	意図や目的、相手を意識して、伝えたい事柄や言葉遣いに気を付けて書き、推敲する。	・封筒、はがきの使い方 ・敬語の理解
	「読書で自分の考えを広げたり深めたりする」『夢を跳ぶ』	自分の課題に応じて資料を探し、集めた情報や資料の中から取捨選択し、自分の考えをまとめる。	・書き手の考え方について、自分の知識と関連付けながら考えること ・情報収集
二学期	「言葉の小窓2」 『話し言葉と書き言葉』	「話し言葉」と「書き言葉」の差異について考える。	・表現の工夫 ・話し言葉と書き言葉の特徴の理解
	「1学期の国語学習を振り返ろう」	各単元の自己評価をもとに、成果と課題を文章にする。	事実と気持ちをわかりやすく分けて書くこと
	「SNSから自由になるために」	SNSの性質を知り、インターネットでの表現のあり方について考える。	・SNSの特性
	「漢字の広場2」 『漢字の成り立ち』	漢字の成り立ちについての理解を深める。	・成り立ちに気を付けて漢字を活用すること
	「自分の考えが伝わる文章になるよう工夫する」『持続可能な未来を創るために一不平等のない社会を考える一』	・SDGsについて知る。 ・テーマについて考え、具体例を加えるなどして、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書く。	・文章の工夫の仕方 ・情報や考えの共有

時期	「単元名」・『教材名』	学習のねらい	おもな学習内容
	「主張と例示との関係を捉える」 『紙の建築』	文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係をとらえる。	・事例の役割や効果 ・事例と主張を関連付けて読むこと
	「根拠をもとに意見文を書く」	自分の考えを的確に伝えるように工夫して書く。	身近なことを中心にした事柄に対する自分の考えを持ち意見として表現する
	弁論大会	自分の考えとその根拠が明確な文章を書き、聞き手を意識した話し方をする。	意見文を発表すること
	「文法の小窓2」『活用のある自立語』	「活用のある自立語」三品詞それぞれの働きについて理解する。	用言（動詞、形容詞、形容動詞）について理解すること
	「古典を朗読しよう」 『敦盛の最期』—平家物語—	・表現に注目して、登場人物の気持ちの変化を考える。 ・文体のリズム感を生かして朗読できる。	・朗読の工夫 ・情景や人物の描写が文章全体の雰囲気を作り上げる効果
	「古典の随筆を読もう」 『随筆の味わい』—枕草子・徒然草—	各章段に込められた作者の感性や考え方に共感したり、想像できたりする。	・各章段の内容理解 ・清少納言の鋭い感性と兼好法師の皮肉味を看取すること
	「古典の解説をつくろう」 『二千五百年前からのメッセージ』 —孔子の言葉—	・孔子の言葉について自分の考えをもつ。 ・繰り返し読んで、漢文固有の表現に親しむ。	・音読、暗唱し独特のリズム感を楽しむこと。 ・一つの箴言を選び、自分の考えと比較すること
	「読んで考えたことを紹介し合おう」『坊ちゃん』	さまざまな情報を得て、自分の考えをまとめることができる。	・自分の考えを広げたり深めたりすること。 ・レポートにまとめること
	「短歌を作ろう」 『短歌の味わい』	それぞれの短歌を読み味わい、鑑賞することができる。	・短歌の形式や句切れ ・短歌の鑑賞
	「表現の仕方を読む、構成や展開を読む」『夏の葬列』	構成や展開、表現の仕方に注意して読み、特徴や効果に考えを持つ。	主人公の心情の変化をとらえる。根拠を明確にして自分の考えをまとめること
	「漢字の広場3」 『漢字の多義性』	漢字の多義性についての理解を深める。	・漢字の多義性の理解 ・国語辞典、漢和辞典の活用
	「書き初め展に向けて練習しよう」 ～毛筆～	行書の基礎的な書き方を理解して、行書で書く。	字形を整え、文字の大きさ、配列、配置を意識して書くこと
	「説明文の構造を考えよう」 『ガイアの知性』	文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分ける。	・文章の構成や展開とその効果、表現の仕方 ・説明の文章を読んで自分の考えと比較し、意見を持つこと
	「2学期の国語学習を振り返ろう」	各単元の自己評価をもとに、成果と課題を文章にする。	事実と気持ちをわかりやすく分けて書くこと
三 学 期	「説明文の内容を精査しよう」 『学ぶ力』	筆者の問題提起について、自分の考えをまとめることができる。	筆者の問題提議を受け止め考えたことを文章にまとめること
	「社会生活と言語コミュニケーション」	社会生活の中から話題を決め、自分の考えをもち、役割や討論のあり方を理解する。	・考えのまとめ方
	「文法の小窓3」 『付属語のいろいろ』	「付属語」二品詞それぞれの働きについて理解する。	助詞・助動詞の働き
	「サイドストーリーを作ろう」 『走れメロス』	登場人物の言動に注目し、人物像をとらえ、サイドストーリーを書き、発表する。	設定された課題に沿って、各自の考えを交流し、作品の本質に迫ること
	「言葉の小窓3」『類義語・多義語・多義語・同音語』 「漢字の広場4」『同音の漢字』	類義語、対義語、多義語、同音異義語の違いを知って、日常生活に生かそうとする。	類義語、対義語、多義語、同音異義語についてそれぞれ理解し、活用能力を養うこと
	百人一首	百人一首を通して和歌に親しみをもつ。	暗唱を軸に散らし取り
	「1年間のまとめをしよう」	根拠を明確にしなが、1年間の学習を振り返り、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する。	・自己評価の方法 ・読み手に対して、どの部分が根拠であるかが明確になるように工夫すること

4 評価について

(1) 知識・技能

社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。

- ① 漢字を正しく読んだり書いたりすることができるか。
- ② 語句や言葉のきまりを正しく理解しているか。
- ③ 字形を整えて効果的に書くことができるか。

(2) 思考・判断・表現

「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。

- ① 相手の話を注意深く聞き、内容を理解することができるか。
- ② 広く話題を求め、速度や声の大きさに注意して効果的に伝えることができるか。
- ③ 目的に応じ、条件を守って適切な文章を書くことができるか。
- ④ 自分の考えや意見を、根拠を明確にして適切に書くことができるか。
- ⑤ 文章の内容を正しくとらえ、主題を考えたり要旨をとらえたりすることができるか。
- ⑥ 語句の意味を正確にとらえ、論理の展開を正確につかむことができるか。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、読書を生活に役立て、言葉を適切に使おうとしている。

- ① 学習の見通しをもって、自ら課題に積極的に、粘り強く取り組んでいるか。
- ② 読書を生活に役立て、言葉を適切に使おうとしているか。
- ③ ノートやプリントなど学習の記録が整理されているか。